

宮代町郷土資料館だより



# えんがわ

第46号

企画展 身のまわりの生活史8

## もったいない～モノはとことん使いきる～

私たちの生活の中では「エコ」という言葉がよく使われています。この「エコ」という言葉は、エコロジー (ecology) やエコノミー

(economy) といった言葉を省略した和製英語です。エコロジーとはもともと「生態学」を示す言葉です。よく使われるようになったのは、「環境に配慮していそう」とか「自然や地球に優しい」という意味から、生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な活動や思想の一部あるいは全部を示す言葉として使用されています。エコノミーとは「節約・儉約」とか「経済的である」、「(時間・労力などの) 無駄を省く」といった意味の言葉です。いずれも地球規模で問題となっている環境問題への対策の中から生まれ



布が寄せ集められて作られた雑巾

たり使われたりしている言葉です。

現在の私たちの暮らしは大変豊かなものであるといえます。しかし自然環境の悪化や、大量に発生する廃棄物の処理のため

に多くの手間と時間をかけなければならない、などといったさまざまな課題があります。それらに対応するために、地球や生態系などの環境に負荷をあたえないような生活スタイルの構築や、廃棄物を「廃棄するもの」ではなく、資源や素材として再利用することなどを総称して「エコ」と表現するようになりました。

この「エコ」な生活の参考になるとして、江戸時代から昭和30年代あたりまでの人々のくらしぶりが話題になることがあります。当時と

炭俵





3種類以上の布から作られた襦袢

「使用後は購入先に戻す

Return」

「あとがき～未来のみやしろに  
向けて」

の7つのコーナーにわかれています。いずれのコーナーにおいても、昔の人々の知恵や工夫を紹介しています。

モノに対して「もったいない」という言葉には、そのモノが「粗末に扱われて惜しい」とか「むやみに費やしてしまうのが惜しい」などといった思いが込められています。壊れても直して使用する、使える部分はとっておく、使えなくなってしまうまで使うなど、モノができるまでの

は生活スタイルや環境などに大きな違いがあり、総てを真似することはできませんが、当時の人々の「もったいない」という考え方や、モノを大切にされたその方法などには学ぶべき点が多くあるからでしょう。

今回の企画展では、収蔵品展としてみなさまから寄贈・寄託していただいた資料の中から、特に稲ワラを使って作られた道具類や、衣類などの身近な資料を中心に紹介しています。



藁 (わら) で作られたタワシ

展示は、  
「まえがき  
～循環型社会と昔のみやしろ」  
「藁は大事な資源だった  
Resycle」  
「着物は形をかえて最後まで使う  
Reform」

「工夫で道具を生み出す Remix」  
「壊れても直して使う Repair」

過程において、多くの時間と労力が必要だった時代でしたから、モノの一つひとつに込められた労力・経費・時間といったものの存在を意識して大切にしない、という教訓であるといえるでしょう。

現在の私たちの生活スタイルでは、昔の人々の生活スタイルをそっくりそのまま真似することが難しくても、そこに込められた考え方や知恵を学ぶことは、未来を創造する一助となるはずで

この企画展は10月20日(日)までの開催です。期間中の休館日は、9月2・9・17・24・30日、10月1～4・7・15日となっています。皆様のお越しをお待ちしています。



リターナブル瓶の先駆・通い徳利

## 夏休み体験教室

# 郷土資料館に行こう

毎年、郷土資料館では小中学生を対象として夏休み体験教室を実施しています。今年も、8月1日から21日まで「夏休みとおき体験」、7月27日、8月23日の両日「土器作り教室」が行われました。

### 夏休みとおき体験

「夏休みとおき体験」では、小学校1年生以上を対象とした縄文ペンダントづくり(2回)、しほり染め体験(初級)(2回)、昔の帳面づくり、小学校4年生以上を対象としたまがたまづくり(2回)、はんこづくり(2回)を実施しました。



まがたまの形が出来上がってきました

縄文ペンダントづくりやまがたまづくりでは、石を自分で書いた形の通り削ったり磨く作業がなかなか大変だったようですが、首にかけるひもを通す穴が開いた瞬間の笑顔が素敵でした。出来上がったペンダントやまがたまを、さっそく首にかけてとてもうれしそうでした。



彫刻刀を上手に使って彫っていますね

はんこづくりは、うす紙に自分の好きな絵や文字を書いて、ゴム板に反転させて彫刻刀で彫るもので

すが、彫刻刀の使い方が少し難しかったようです。しかし、出来上がったはんこに朱肉をつけて押ししてみると、「わー」という歓声が上がっていました。また、友達同士でお互いの紙に押し合っていました。

昔の帳面は、紙をそろえ紐を通し、昔ながらの帳面をつくりました。「学習帳に使うんだー」という子どもたちもいました。



すばらしいしほり染めのハンカチが出来ました

しほり染めは、白いハンカチを輪ゴムでとめたり、割りばしで挟んでとめて染めます。とめたり、はさんだりしたところが白く浮き出ます。どのようにとめるかで図柄も変わってきますので、染め上がるまで分かりません。予想以上の出来に、ハンカチをうれしそうに持ち帰っていったのが印象的でした。

それぞれ悪戦苦闘しながらも、世界でたった一つ自分だけの作品をつくり「楽しかったよ」、「来年もやってみよう」との声が多く聞かれました。

### 土器作り教室

7月27日に粘土をこねて土器を作りました。中々思うようにつくるのは難しかったようで、縄文時代の人たちのすごさを感じていたようです。あわせて土鈴も作りました。8月23日はよいよ土器焼です。5時間ほどで焼き上がりました。その間、火起こし体験や縄文ペンダントづくりを行い、二日間縄文時代の生活の一端を体験しました。焼きあがった土器は袋に入れて大切に持ち帰っていました。



# 今年の特別展は「西光院の歴史と文化財」です！

西光院は、奈良時代の僧行基による草創と伝える古刹で、江戸時代新義真言宗の寺院として将軍から朱印 50 石を与えられていました。こうした西光院には古くから伝わる貴重な文化財が数多く残されています。

今回の特別展では、古代～近代に至る歴史と、西光院に伝わり町指定文化財である後北条氏関係の中世文書や歴代将軍の朱印状、徳川家康画像、葵の紋入りの粟田口焼の茶碗をはじめ古文書等関係資料について展示します。あわせて西光院出身の僧で徳川家康の信任が厚かった京都智積院第3世日誉等についても紹介します。

特別展は、10月26日(土)～12月23日(月・祝)の間、開催いたします。ぜひご覧ください。

なお、関連の講座も11月に実施します。詳しくは、町の広報(10月号)をご覧ください。



西光院



葵の紋入り粟田口焼の茶碗

## 資料館日誌抄

- 3月16日 企画展南埼玉郡と宮代町 (5月6日まで)
- 4月13日 さくら絵画クラブ来訪 (13名)
- 4月21日 ボーイスカウト宮代1団体験学習職員派遣 (15名)
- 5月11日 企画展写真で見る宮代の庚申塔 (7月7日まで)
- 5月22日 山崎山遺跡試掘調査 (23日まで)
- 5月23日 伝承服部氏屋敷跡遺跡試掘調査
- 5月25日 歴史ウォーク庚申塔をめぐる(14名)
- 5月26日 ボーイスカウト春日部第9団ビーバー隊見学(13名)
- 6月5日 百間小学校2年生見学 (17名)
- 6月13日 日本工業大学別科への職員派遣 (13名)
- 6月18・19日 百間中学校2年生職場体験学習 (3名)
- 6月20・21日 前原中学校2年生職場体験学習 (2名)
- 6月22日 宮代の旅散歩クラブ見学 (15名)
- 6月23日 図書館郷土講演会への職員派遣 (37名)
- 7月4・5日 杉戸中学校2年生職場体験学習 (3名)
- 7月13日 企画展身のまわりの生活史8 (10月20日まで)
- 7月21日 山崎子供会体験学習への職員派遣 (30名)
- 7月27日 土器づくり教室 (20名)
- 8月1・2・7～9・14・16・20・21日 郷土資料館へ行こう(134名)
- 8月3日 かやぶき民家で聞く昔話 (25名)
- 8月3日 国学院大学地方史研究会OB会见学 (30名)

- 8月7・21日 観光事業受講者講習会への職員派遣 (5名)
- 8月8日 春日部市郷土資料館学芸員実習生見学 (8名)
- 8月9・10日 教員5年次研修 (2名)
- 8月20・21日 教員5年次研修 (1名)
- 8月23日 土器焼き (20名)

## 資料館寄贈者名簿

(敬称略、順不同)

森田敦子(民具)、深井幸雄(半鐘)、金子和生(徳利)

宮代町郷土資料館だより えんがわ 46号

発行日 平成25年8月31日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>